

**チェアパーソン：安井 至**

国連大学副学長

ラポルトゥール：スリカーンタ・ヘーラト

国連大学シニアアカデミックプログラムオフィサー

セッション4においても、本国際シンポジウムの基本コンセプトである「イノベーション・エコシステム」のモデルを採用する。このモデルは、インプット段階、場（相互作用の場）、アウトプット段階の3段階から構成されるモデルである。インプット段階では、基礎科学や基礎的技術などにおける新しいシーズや新しい知識が必要不可欠である。イノベーションに向けての最初のチャレンジは、如何にしてそのようなシーズや知識を創出するかを検討する事である。次の段階である場の機能は、全ての関係者にそのようなシーズを周知させて、そのシーズの内容に関する議論をするチャンスを与えることである。

セッション4における一義的な議論の対象は、シーズや知識の創出の可能性を増大させるためのファンディングシステムや教育、人材等の適切な配分・配置である。

イノベーションは、国や地域の特性によって、その意味や概念が異なる可能性がある。そのため、アウトプット段階のイノベーションを議論する前に、ある境界条件を定める必要がある。多くの国では、いかなるイノベーションにおいても経済的な価値が最も重要であるが、他の地域においては、社会的あるいは環境的価値が最も重要であるという場合もあり得る。

結論として、セッション4におけるパネルディスカッションの目的は、本国際シンポジウムの最終的な目的を達成するために、科学と技術の役割を意識しながら、いくつかの決定的な要素や事実を見つけ出すことにある。まず必要なことは、基礎科学と応用との間に存在するギャップを埋めるための解を見つけ出すことだろう。さらに、本当の意味でのイノベーションを見分ける方法を見出すことも必須である。

セッション4において議論される可能性が高いトピックスは以下のとおりである。

- (a) 基礎科学の役割、基礎科学分野での研究者の役割
- (b) 技術の役割、技術分野での研究者の役割
- (c) 特に効率性と説明責任の観点からのファンディングシステムの役割
- (d) 場の役割、如何にして場を作り出すか
- (e) イノベーションの種類：知の範囲を広げるようなイノベーション、既存の知識を新しい分野に適用するイノベーション、ある地域にのみ成立するイノベーション
- (f) イノベーションのアウトプット：経済的価値、社会的価値、その他

セッション4の議論に参加するすべての人々は、発言に際して、どのような事象をイノベーションとして認識しているか、その例示がなされることが望まれる。例えば、歴史的なイノベーションである電気、航空機、プラスチック、液晶、携帯電話、インターネット等。

地球規模の持続可能性は、人類の究極のゴールであるが、開発段階に応じて様々な定義があることも事実である。セッション4のパネルディスカッションにおいては、これに関連するイノベーションにおける科学技術の役割にも、若干触れたい。